

故 名 譽 会 員 大 蔵 公 望 氏 を し の ぶ



昭和 43 年 12 月 24 日、大蔵さんは昌子夫人の弛まぬ手厚い看護に見護まれながら、88 才の生涯を閉じられました。誠に痛恨の至りであります。

土木出身の人でありながら、技術者としてよりはむしろ社会人として、多方面にわたり多彩な活動をされ、その才能を遺憾なく発揮された大蔵さんの一生には眼を瞠すものがあります。

大蔵さんは明治 15 年生れで、明治 37 年東京帝国大学土木工学科を卒業され、若い時からの夢であった支那大陸で活躍するためには、米国流のやり方を身につける必要があるという恩師広井博士の勧めにしたがい米国に渡り、4 年間鉄道の建設および運営を見習い、明治 41 年帰朝されたのでありますが、時偶々支那大陸では反米運動が盛んであったので渡支を諦め、鉄道院の運輸方面に入られたのであります。

大蔵さんは仕事には厳格でありましたが、人と為り温厚で寛容であり、親切であり、人と接するに別隔てなくいつも誠意に溢れていたもので、その周囲には常に和気藹々たる空気が漲っていました。この特長は弱冠 30 才にして新橋運輸事務所長に就かれた時その光彩を発揮し、常時現場を巡視されるので部下で所長の顔を知らぬものなく部下の緊張は高まり、大正 2 年の御大葬関係輸送、大正 3 年の東京駅開業時の京浜電車事故の跡仕末等、難問題を無事に終えられたのでありまして、かつ部下からはその後多数の傑出した人材を輩出されたのであります。

大正 8 年神戸管理局運輸課長の時満鉄からの懇望があり、多年の願望である支那大陸に渡る機会を得られたので勇躍満鉄に移られ、運輸部次長、運輸部長、また理事として思う存分の活躍をされ、満鉄の経営に大なる寄与をされたのであります。中でも北満「ハルピン」に集積される良質多量の大豆を「ロシア」側は東支鉄道により「ウラジオ」に輸送しておいたものを、血の滲むような競争と粘り強い交渉によって、その 55% を満鉄線により大連に搬出することに成功されたごとき、また列車運転の正常化、貨物賃率の合理化等を断行されたごとき、多くの功績をあげられたのであります。

昭和 6 年満鉄理事退任、翌 7 年貴族院議員に当選、男爵議員で構成されておる公正会に属しましたが、その高邁なる識見と至公至平なる態度とは漸次院内において重きをなし、単に政府機関のみならず、民間団体よりも数多くの調査会委員、または機関の代表者を委嘱され、幅広い公職活動に入られたのであります。

今終戦前におけるそれら公職の主なるものをあげますと、鉄道運賃審議会、海外拓殖調査会、中央経済審議会、企画審議会、交通調整委員会、科学技術審議会、大東亜戦争調査会、日本出版文化協会、大政翼賛会第六委員会等の各委員、また満洲移住協会理事長、拓殖大学学長、財団法人東亜研究所副総裁、調査研究動員本部総裁、東亜旅行社総裁、日本交通公社総裁等を歴任されたのであります。

而してこの間にあって大蔵さんが力を入れて論議されたものの二、三をあげますと、満洲事変に関連し日本の満洲政策はいかにあるべきか、日本の鉄道新線敷設方針はいかにあるべきか、大東亜戦争が拡大してからは東南アジア事情調査のため総理大臣を総裁とする東亜研究所を設立すべきである等でありまして、常に大局的見地より対処する態度を採られたのであります。また当時台頭しつつあった軍部の政治経済介入に対しては、無遠慮な批判を加えられたため、告訴一步手前という危機に見舞われたこともあり、また戦争の早期終結に対しては同志と語り奔走されたこともあったのであります。

終戦後望まれて日本自転車産業協会会長となり、中小企業の一つである自転車産業の振興に尽され、続いて日本交通公社社長、運輸省の都市交通審議会委員、日本国有鉄道幹線調査会会長、東京都交通審議会会長、首都交通対策審議会副会長、国鉄新幹線促進調査会会長として交通問題にその蘊蓄を傾けられ、その他にも内閣労務法制審議会会長、国政研究会常務理事、日本国際連合協会理事、日本国際貿易促進協会顧問等として国政全般にわたり尽力されたのであります。

大蔵さんの御一生を顧る時、誠に恵まれた充実した一生であったと思うのであります。御家庭に恵まれ、交友に恵まれ、魅力ある性格に恵まれ、学識に恵まれ、地位に恵まれ、活動舞台に恵まれ、順調そのものであったと申して差しつかえないと思うのであります。しかしこれを形造られたのはやはり大蔵さん自身その人であって、大蔵さんの残された輝かしい御功績は、大蔵さんが常に自制し、発奮し、寸時も休むことなく努力された賜であって、特に大蔵さんの偉大であったところは無欲恬淡、至誠をもってことに当られた点であると思うのであります。

ここに大蔵さんの御遺徳を偲び、その御冥福を御祈り致したいと存じます。(名誉会員 元会長 平井喜久松・記)